〔ウイルス　第61巻　第2号，pp.259-260，2011〕

集会案内

第10回みちのくウイルス塾報告（7月16・17日）

西村　秀一
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
臨床研究部ウイルスセンター

この7月16，17日，毎年この時期恒例の，夏の学校『みちのくウイルス塾』が，当院を会場に開かれました．日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催のこの会も，数えて10回目の記念すべき開催となりました．当初震災で開催も危ぶまれていましたが，震災に負けてはならない，むしろ東北復活の狼煙（のろし）のひとつになってやろうとの思いもあり，開催を決断しました．

今回は特に第10回目を記念して，東北出身のウイルス学の大先達，一昨年の文化勲章者である日沼頼夫京都大学名誉教授が，私たちの思いに応えて講義をしてくださることとなり，それを目当てにいらした方も多かったようです．常連の先生方に交じって，私たちの大先輩の先生方のなつかしい顔も会場のあちこちで見受けられましたし，若い世代を代表する大学院生たちも，たくさん来てくれました．結果的に，いつもよりむしろ盛大な会になった印象すらあります．会場は，まさに震災の現場，傷跡も癒えない当院大会議室です．

最初に当院和田院長から開塾の挨拶と，震災における当院の様子の話があった後講演に移り，2日間にわたり，7人の多彩な講師の面々が講義を繰り広げました．会場では老若男女，大学生から開業の先生まで幅広い属性の，延べ140人の塾生がそれらを熱心に聴講し，それぞれ講義の後には会場から活発に質問があがり，先生方がそれらひとつひとつに丁寧に答えるという，いつもながらの熱気に満ちた非常に有意義な会になりました．

初日の講師と演題は以下の通りです．

1．「小さなウイルスがなぜ病気を起こすのか」
京都大学ウイルス研究所教授　小柳義夫
2．「米寿のウイルス学」 京都大学ウイルス研究所
名誉教授　日沼頼夫
3．「プリオン2001」 東北大学大学院医学研究科
CJD早期診断法開発分野教授　北本哲之
4．「あたらしいウイルス薬ができるまで」 塩野義製薬
創薬・疾患研究所感染症部門長　佐藤彰彦

初日の講義終了後，地域研修棟4階フロアに場所を移して，意見交換会が開かれました．ビールを片手に参加者と講師の先生方が親しく語り合う，なごやかな会となりました．

そして翌日も朝9時から3つの講義があり，そのあと，もはや当塾恒例となった，獨協医大増田先生による知識の確認と娯楽を兼ねた，双方向無線機を用いた「おさらいクイズ」があり大いに盛り上がりました．

なお，2日目の講師と演題は以下の通りです．

1．「エンテロウイルス71の分子生物学」 東京都総合
医学研究所ウイルス感染プロジェクト長　小池智
2．「あたらしいライノウイルスとエンテロウイルス」
東北大学大学院微生物学分野大学院生　藤直子
3．「咳の物理学的解析と空中浮遊インフルエンザウイルスの活性についての研究」 仙台医療センター
臨床研究部ウイルスセンター長　西村秀一

会場の大会議室前の廊下には，これまで10回のポスターや会の様子を写した写真が飾られ，よくぞ10回もの会を重ねたという感慨ひとしおでした．来年からも気持ちを新たに回数を重ねていければ，と願っております．

この会は，「みちのく」という名を冠しておりますが，遠方からの聴講者も歓迎しております．皆様，ぜひふるってご参加ください．

なお，塾の情報や講義内容を聴講者がわかりやすく解説した聴講録，講師提供の講義で使用したスライド等を当ウイルスセンター・ホームページのサイトに掲載しておりますので，そちらの方もぜひご覧ください．
（http://www.snh.go.jp/Subject/26/juku/index.html）

連絡先
〒983-8520
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
臨床研究部ウイルスセンター
TEL & FAX: 022-293-1173
E-mail: vrs.center@snh.go.jp

〔ウイルス　第61巻　第2号，pp.259-260，2011〕

みちのくウイルス塾について

当塾は，平成13年に始まった日本ウイルス学会教育研究支援委員会と当院の地域連携室の共催の講演会です．

前者からはボランティアの講師とその旅費の提供，後者からは場所と宿泊施設の無償提供と意見交換会の資金援助をいただいています．

近寄り難いと思われがちなウイルス学への理解者を増やし，あわよくば将来ウイルス分野に進む若者が出てくれることを願って始めた会で，基本的に海の日を含む７月の３連休の最初の２日間に行い，土曜午後１時スタート，日曜昼終了というかたちで行われています．毎回だいたい６人から７人の講師が講義をしますが，講師陣には，自分の得意な分野について，「素人にもわかる，わかりやすい話をすること」が求められています．

講師は，東北地方在住の先生方をベースに全国のウイルス学各分野で活躍する研究者にお願いしており，ベテランから若手までみなボランティアでお越しいただいております．中には当塾が始まった最初のころに大学院生で，聴く立場で参加していたのが，今では立派な研究者となり（故郷？に）錦を飾って講師になる人たちもいて，今後そういった人たちが増えてくれることを願っています．また最近は，当代きっての研究者にならんで，将来が嘱望される大学院生にも，一般の人たちに対して自分の研究をわかりやすく伝える勉強という意味で，発表の機会を与える試みも始めています．

第１日目終了後の集合写真，講師の面々と，熱心に講義を聴き質問に立つ聴講者たち